

設計・施工の分離発注を

機能確立へ積極アピール

建設業
近畿集
会緊急
J-Iが



耐震強度偽装

日本建築家協会(J-I)近畿支部(出江寛支部長)は8日、大阪市中央区の綿葉会館で、耐震

強度偽装問題に関連した緊急集会を開いた。この中で事件の背景として設計・施工の一括発注が問題としてクローズアップされた。今後、支部として設計・施工の分離発注実現に向けてアピールし、建築家法制定など建築家の機能確立に向けた動きを展開する方針を打ち出した。近く、専門のワーキンググループ(WG)を設置し、対応を協議する。

出江支部長は今回の問題について「建築士の倫理観や道徳教育の大切さを感じた」と述べた上で、問題の背景には設計・施工の未分離があると指摘。「この機会に、長年の懸案でもある設計・施工の分離を実現させた」と訴えた。

構造設計事務所代表は「構造設計者の立場から、構造計算が手計算から、プログラムによるパソコン上の作業へと変わったことが影響している。若い構造設計者については質の低下も感じている」と構造設計者側の課題を指摘した。

会場からは「設計組織全体でモラルを確立する必要がある」「天下りの受け入れ先になっている民間検査機関にも問題がある」「構造設計者がプライドを持って設計でき

る環境を整備すべき」といった意見が出された。設計・施工の分離問題については「現実には難しいのでは」という声もある一方「設計・施工分離を訴える機会にすべき」

「(業界の)体質を変えなければいけない」「検討のためのワーキンググループを設置してほしい」など、設計・施工の分離を促進すべきだという意見が相次いだ。

「設計料は無償という風潮がいまだ根強いが、国民の安全を守るといふ点から設計・施工分離の必要性をアピールしていきたい」と意気込みを述べた。



出江支部長が会見

本部にも分離発注の対応求める